

★香取市都市計画マスタープラン 第1回 地域別懇談会 資料

Ⅱ. 香取市の現況と課題

○市域面積：262.31 k m²（千葉県で4番目の規模）

○人口

- ・人口：87,372人、世帯数：27,264世帯（平成17年国勢調査）
- ・平成7年以降、人口は減少し、高齢化が進行しています。

○産業

- 農業：農家戸数、経営耕地面積は減少しています。
- 商業：従業者数、店舗数、販売額は減少しています。
- 工業：事業所数は減少、従業者数、販売額は増加しています。
- 観光：観光客数は増加していますが、ほとんどが日帰客です。

○土地利用

- ・農地、山林が市域の約7割を占めています。
- ・商業地は、佐原駅、小見川駅周辺および国道等の沿道に形成されていますが、機能の充実が課題です。
- ・工業地は、小見川工業団地の他にまとまったものはなく、新たな工業地の確保が課題です。
- ・住宅地は、市街地（用途地域）や田園等に形成されています。立地条件や周辺の環境に配慮した住環境の向上をはかることが課題です。
- ・用途地域約10.55 k m²（佐原区約6.75 k m²、小見川区約3.80 k m²）が指定されています。

○交通

- ・利根川を横断する橋梁付近など、市街地において渋滞が発生しています。
- ・佐原区の市街地内は一方通行が多く、観光客などにわかりにくい道路網となっています。
- ・国道の一部や市道で幅員の狭い未改良区間や排水機能のない道路があります。
- ・佐原区、小見川区に指定された都市計画道路17路線の改良率は約41%となっています。

○公共交通

- ・鉄道、路線バスとも利用者は減少しています。

○公園・緑地・水辺空間

- ・計画的な公園整備を進めることが課題です。

- ・市南部の緑や利根川、与田浦、黒部川等の水辺空間の保全と活用が課題です。

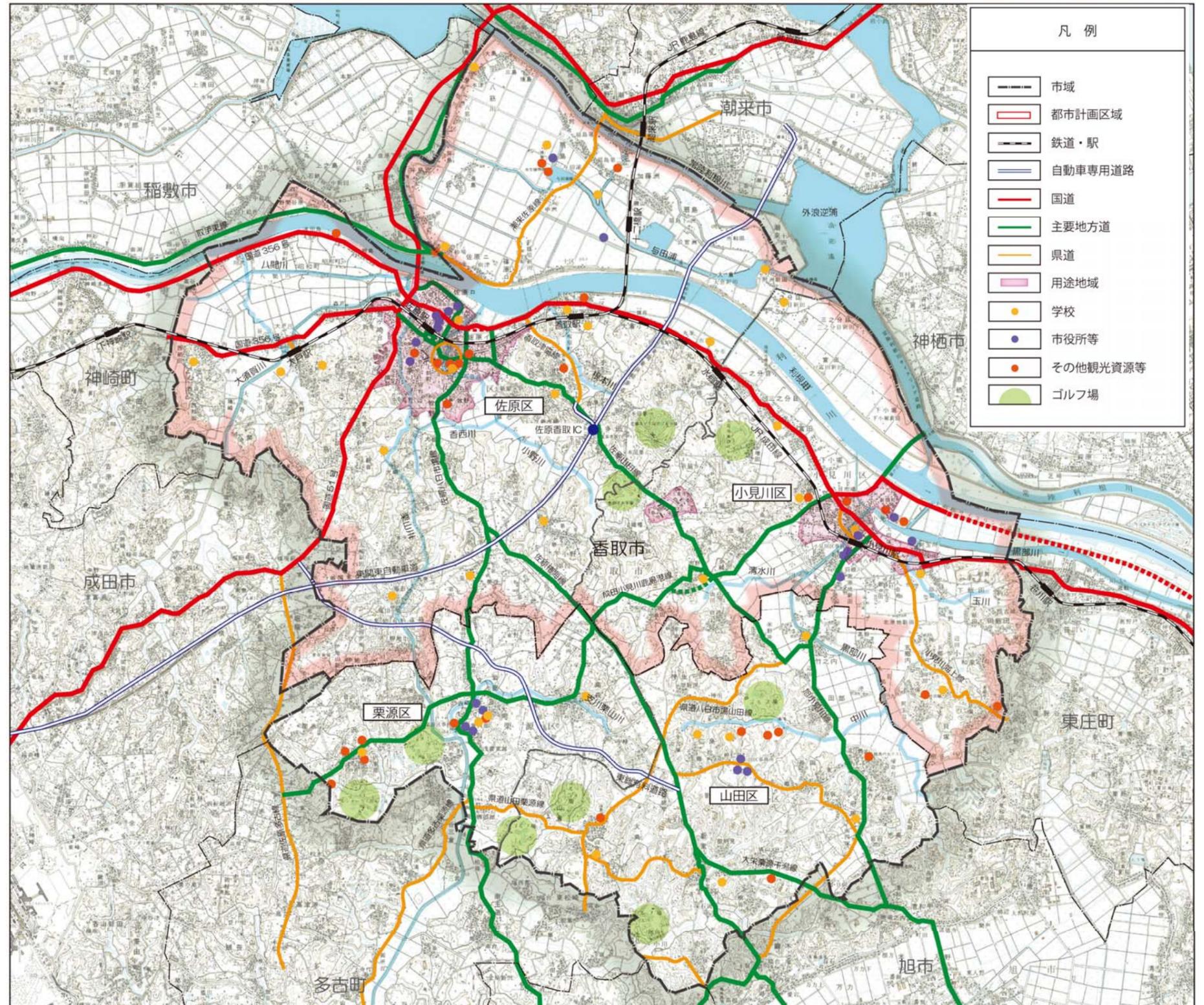
○上水・下水

- ・水道普及率の向上と施設の老朽化対策が必要です。

- ・計画的な汚水処理対策が課題です。

○景観

- ・市街地内の歴史的な町並み、田園風景、水郷地帯など、良好な景観の維持・保全が課題です。



★香取市都市計画マスタープラン 第1回 地域別懇談会 資料 佐原区

Ⅲ-1. 佐原区の現況と課題

○**区の面積**：119.88 k㎡（市域の約46%）

○人口

- ・人口：45,965人、世帯数：14,776世帯（H17国勢調査）
- ・平成7年以降、人口は減少し、高齢化が進行しています。

○産業

農業：農家戸数、経営耕地面積は減少しています。

商業：市内で最も商業が集積していますが、商店数、従業者数、年間販売額は減少しています。

工業：事業所数、従業者数は減少し、製造品出荷額等は増加しています。

観光：香取神宮、水郷佐原水生植物園、小野川沿いなど多様な観光資源があります。観光客数は、香取神宮、水郷佐原水生植物園でわずかに減少していますが、小野川沿いは増加しています。各観光資源の魅力の向上とネットワーク化が課題です。

○土地利用

- ・農地、山林が区域の約7割を占めています。
- ・商業地は、佐原駅周辺および国道等の沿道に形成されています。中心商業地の活性化など、商業機能の充実が課題です。
- ・まとまりのある工業地はなく、小規模な事業所が区内に点在しています。企業誘致先となる用地の確保が課題です。
- ・住宅地は、市街地（用途地域）や田園等に形成されています。市街地の密集住宅地の改善や田園型居住地の住環境の維持、向上が課題です。
- ・佐原駅を中心に用途地域（約6.75 k㎡）が指定されています。佐原本宿耕地地区等、土地利用に合わせた用途地域の見直し等が課題です。

○交通

- ・利根川を横断する橋梁付近など、市街地で渋滞が発生しています。
- ・市街地内は一方通行が多いなど、観光客などにわかりにくい道路網となっています。
- ・国道の一部や市道で幅員の狭い未改良区間や排水機能のない道路があります。
- ・佐原区の都市計画道路9路線の改良率は約39%、未整備区間の必要性、実現性の検討が課題です。

○公共交通

- ・鉄道、路線バスとも利用者は減少しています。

○公園・緑地・水辺空間

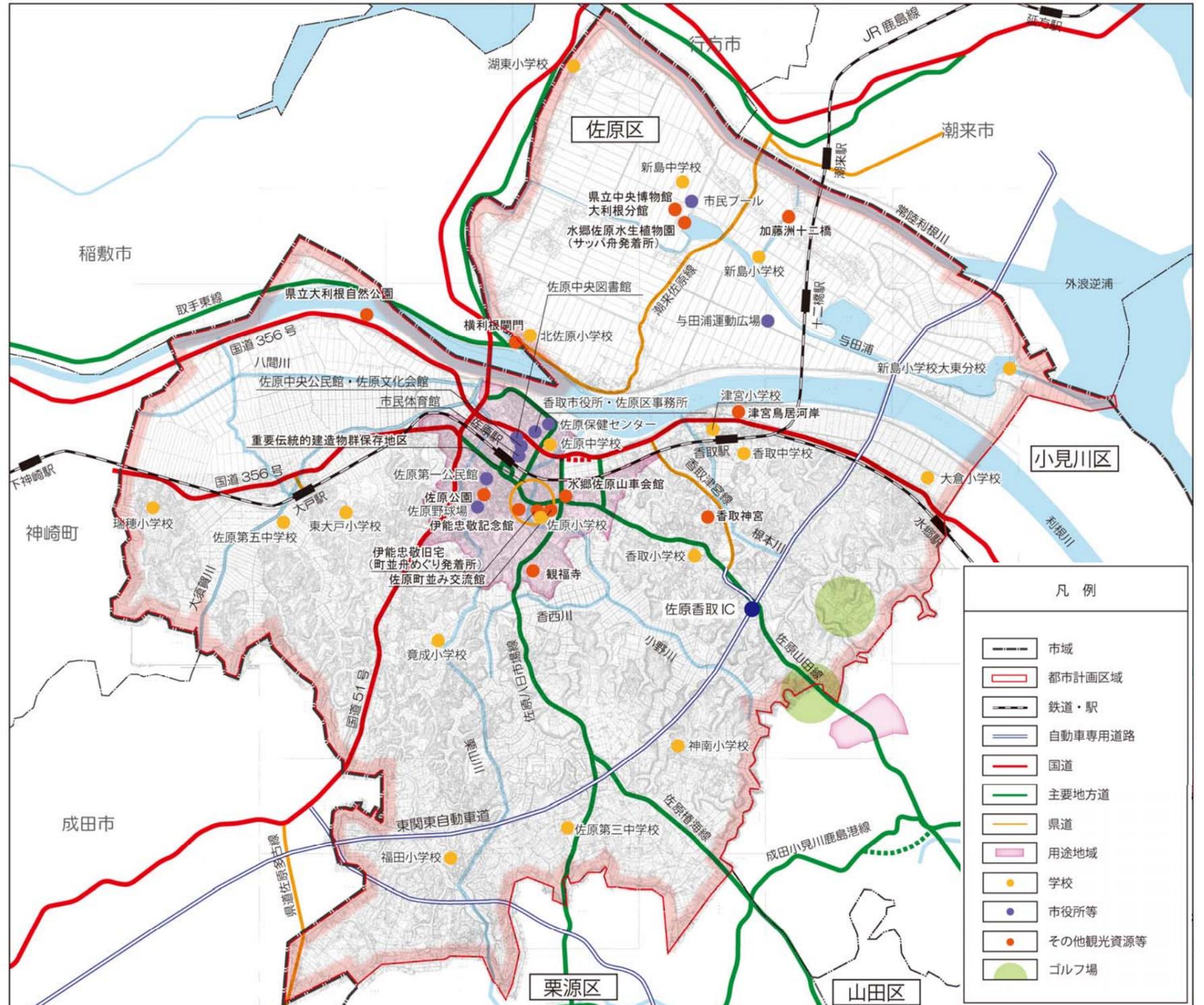
- ・計画的な公園整備を進めることが課題です。
- ・区南部の緑や利根川、与田浦等の水辺空間の保全と活用が課題です。

○上水・下水

- ・水道普及率の向上と施設の老朽化対策が必要です。
- ・計画的な汚水処理対策が課題です。

○景観

- ・歴史的な町並み、香取神宮周辺や市街地南側の良好な緑、水郷地帯など、良好な景観の維持・保全が課題です。



★香取市都市計画マスタープラン 第1回 地域別懇談会 資料 小見川区

Ⅲ-2. 小見川区の現況と課題

○区の面積 : 61.84 k m² (市域の約 24%)

○人口

- ・人口 : 25,399 人、世帯数 : 8,174 世帯 (H17 国勢調査)
- ・平成 7 年以降、人口は減少し、高齢化が進行しています。

○産業

農業 : 経営耕地面積、農家数は減少しています。

商業 : 商店数、従業者数、年間販売額とも減少しています。

工業 : 事業所数、従業者数は減少し、製造品出荷額等は増加しており、市内で最も多い額となっています。

観光 : 主な観光資源は小見川城山公園 (観光客数 30,000 人/年で横ばい) や花火大会などです。また、小見川区の総観光客数は他区と比べ、最も少なくなっています。既存観光資源の活用や新たな観光資源の発掘が課題です。

○土地利用

- ・農地、山林が区域の約 6 割を占めています。
- ・商業地は、小見川駅周辺および本郷・野田地区などの主要な道路沿道に形成されています。
- ・工業地は区の西側に小見川工業団地が整備されています。小見川工業団地の活性化、新たな企業誘致先の確保が課題です。
- ・住宅地は、市街地 (用途地域) や田園等に形成されており、周辺の環境に配慮しつつ、住環境の向上をはかることが課題です。
- ・小見川駅と国道 356 号周辺および小見川工業団地に用途地域 (約 3.80 k m²) が指定されています。

○交通

- ・利根川を横断する小見川大橋の橋梁付近など、市街地で渋滞が発生しています。
- ・国県道の一部や市道で幅員の狭い未改良区間や排水機能のない道路があります。
- ・小見川区の都市計画道路 8 路線の改良率は約 45%、未整備区間の必要性、実現性の検討が課題です。

○公共交通

- ・鉄道、路線バスとも利用者は減少しています。

○公園・緑地・水辺空間

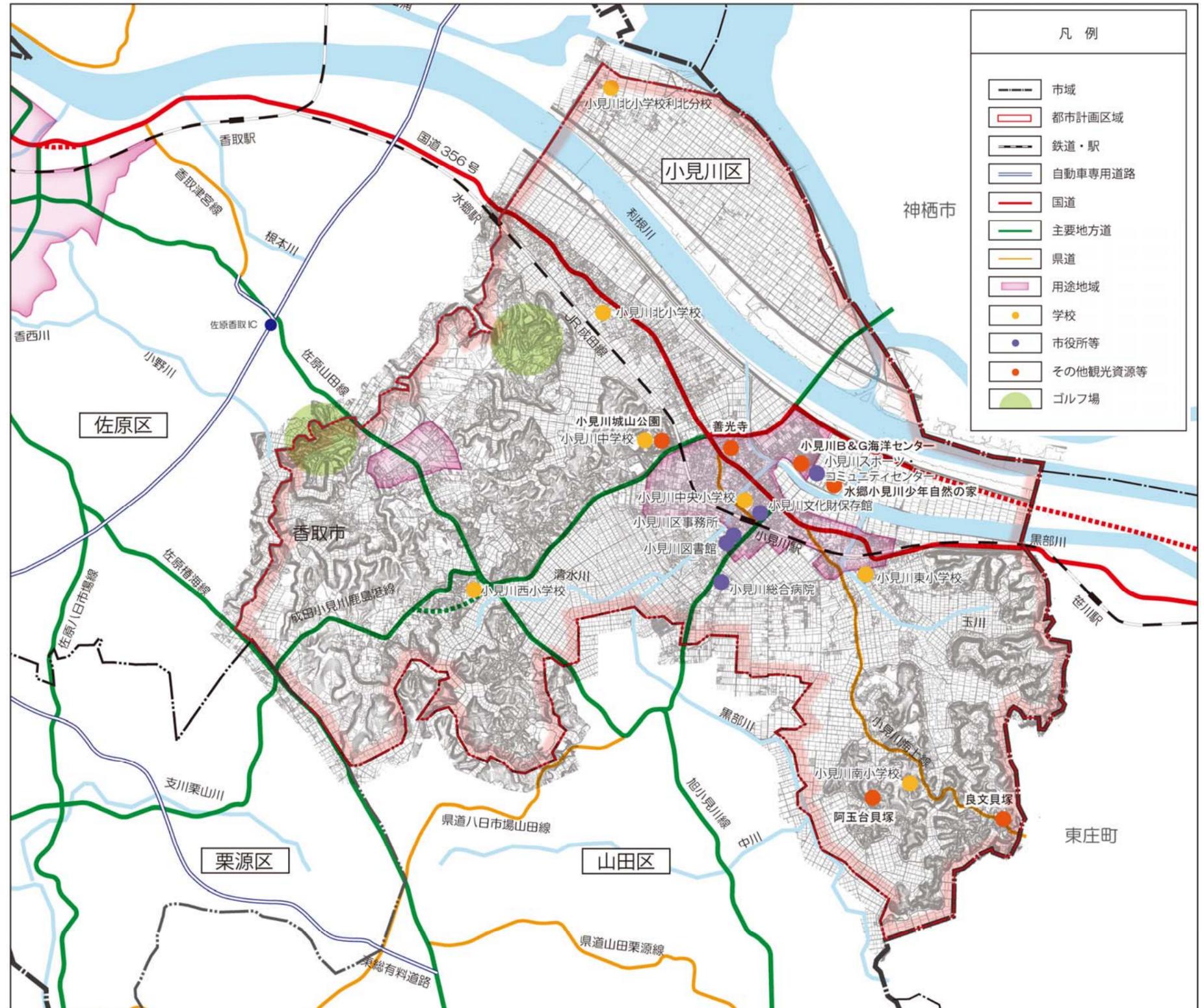
- ・計画的な公園整備を進めることが課題です。
- ・区南部の緑や利根川、黒部川等の水辺空間の保全と活用が課題です。

○上水・下水

- ・水道普及率の向上と施設の老朽化対策が必要です。
- ・計画的な污水处理対策が課題です。

○景観

- ・黒部川沿いの町並み、市街地南側の良好な緑、水郷地帯など、良好な景観の維持・保全が課題です。



Ⅲ-3. 山田区の現況と課題

○区の面積 : 51.54 k㎡ (市域の約20%)

○人口

- ・人口: 10,778人、世帯数: 2,839世帯 (H17国勢調査)
- ・昭和60年以降、人口は減少し、高齢化が進行しています。

○産業

- 農業: 経営耕地面積、農家数は減少しています。
- 商業: 商店数は減少し、従業者数、年間販売額は増加しています。
- 工業: 事業所数、製造品出荷額等は減少し、従業者数は増加しています。また、製造品出荷額等は市の中で最も低い額となっています。
- 観光: 主な観光資源である(有)風土村、橋ふれあい公園の観光客数は減少しています。しかし、(有)風土村は年間約20万人以上が訪れており、市にとって貴重な観光資源となっています。
- 農業との連携など、観光資源の魅力の向上が課題です。

○土地利用

- ・農地、山林等が区域の約7割を占めています。
- ・小規模な店舗が点在しており、区的生活サービスを担う商業機能の充実が課題です。
- ・区内に点在する既存工場の維持、活性化、また、新たな産業の誘致についての検討が課題です。
- ・住宅地は、昔からの集落を中心として形成されています。周辺の環境に配慮しつつ、住環境の向上をはかることが課題です。

○交通

- ・県道の一部や市道で幅員の狭い未改良区間や排水機能のない道路があります。

○公共交通

- ・路線バスの運行路線、便数が減少しています。

○公園・緑地・水辺空間

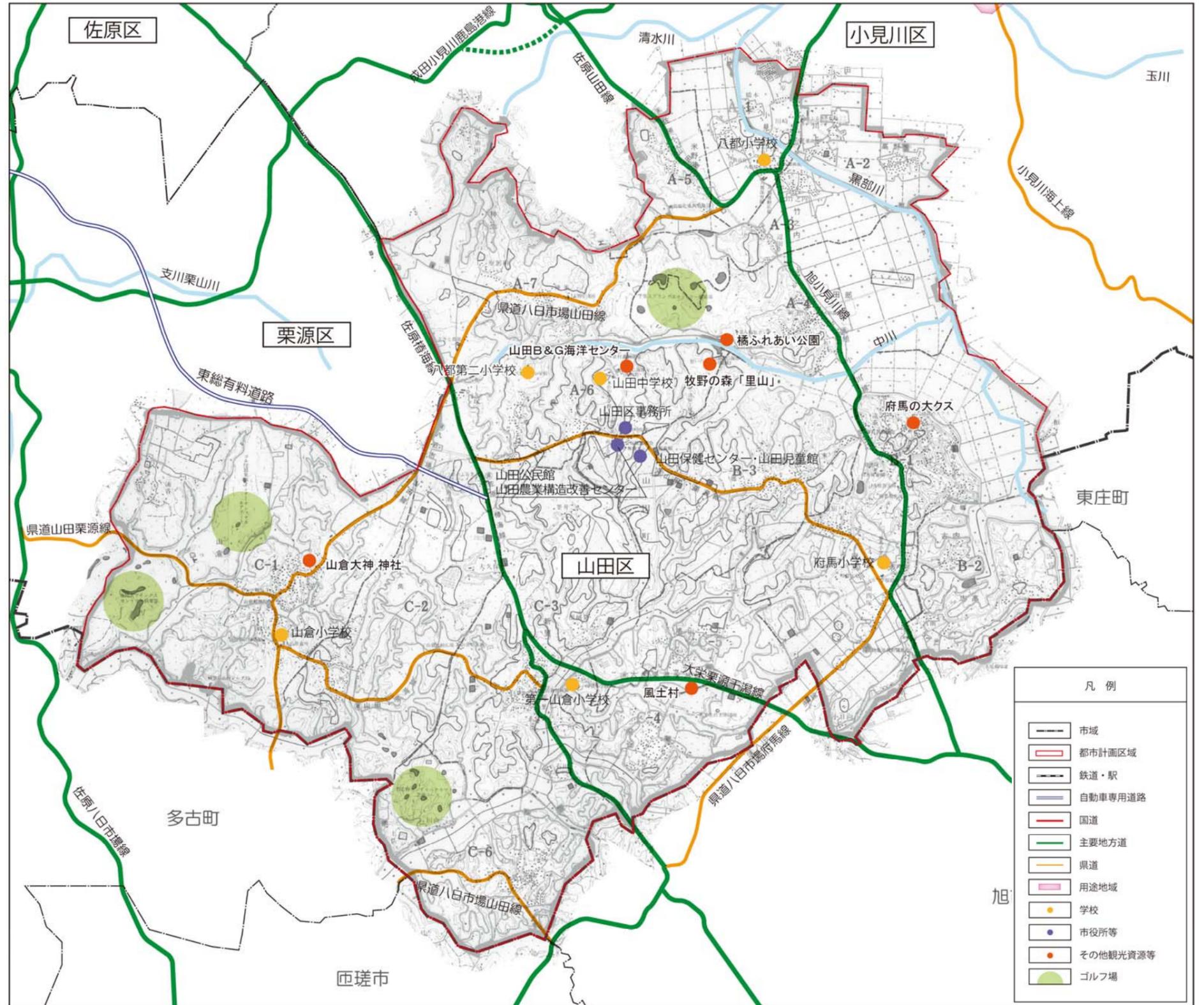
- ・橋ふれあい公園の魅力の向上やまほろばの里の活用が課題です。
- ・山林や田園等の良好な環境の保全が課題です。

○上水・下水

- ・水道普及率の向上が必要です。
- ・計画的な汚水処理対策が課題です。

○景観

- ・一団の農地や谷津田などの良好な景観の維持・保全が課題です。



Ⅲ-4. 栗源区の現況と課題

○区の面積 : 29.05 k㎡ (市域の約11%)

○人口

- ・人口：5,190人、世帯数：1,475世帯（H17国勢調査）
- ・平成2年以降、人口は減少し、高齢化が進行しています。

○産業

- 農業：経営耕地面積、農家数は減少しています。
- 商業：商店数はほぼ横ばいで、従業者数、年間販売額は増加しています。これは沿道型商業施設の立地によるものと考えられます。
- 工業：事業所数は横ばい、従業者数、製造品出荷額等は増加しています。
- 観光：道の駅くりもとやクラインガルデン栗源など、農業と連携した観光機能が成立しています。道の駅くりもとの観光客は増加しており、平成18年には約27万人が訪れています。農業と連携した観光機能の充実や新たな観光資源の発掘が課題です。

○土地利用

- ・農地、山林等が区域の約7割を占めています。
- ・集落地や主要な道路沿道に小・中規模店舗が点在していますが、まとまった商業地はなく、生活サービスを担う商業機能の充実が課題となっています。また、道の駅くりもとは利用者が多く、観光拠点となっています。
- ・区内に点在する既存工場の維持、活性化をはかるとともに、大開地区の土砂採取跡地の一団の未利用地の有効利用が課題です。
- ・住宅地は、昔からの集落を中心として形成されています。周辺の環境に配慮しつつ、住環境の向上をはかることが課題です。

○交通の現況と課題

- ・県道の一部や市道で幅員の狭い未改良区間や排水機能のない道路があります。

○公共交通

- ・路線バスの運行路線、便数が減少しています。

○公園・緑地・水辺空間の現況と課題

- ・栗山川ふれあいの里公園の活用、山林や田園等の良好な環境の維持・保全が課題です。

○上水・下水

- ・水道普及率の向上が必要です。
- ・計画的な污水处理対策が課題です。

○景観

- ・一団の農地や谷津田などの良好な景観の維持・保全が課題です。

